【 49-1 】2026 年度　大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	高度臨床医育成コース（内科学） (Training Course for Physicians with Professional Skills)
研究指導教員	大平 善之 峯下 昌道 明石 嘉浩 立石 敬介 柴垣 有吾 山野 嘉久 曽根 正勝 新井 文子 川畑 仁人 國島 広之
研究・教育の概略	次の項目を満たす指導的臨床医（高度専門職業人）の育成をめざす ・高度の専門性が必要とされる医療業務に必要な診断・治療技術（専門医認定資格の取得に結びつく臨床技術を含む）と高い医療・生命倫理観に裏打ちされた専門性 ・医学のみならず、その他の生物学的研究に関する幅広い基礎知識 ・幅広い基礎知識に裏打ちされた医療情勢の変化に対応する能力 ・動物実験などの臨床研究遂行に必要な知識と経験や人獣共通感染症に関する幅広い知識等に裏打ちされた国際的に適用する臨床能力 ・サイエンスコミュニケーション、トランスレーショナルリサーチ、知的財産や情報の管理等に関する基礎的な知識等を有する また、下記を修了要件とする。 ① 学位申請論文：１編 （査読のある医学専門誌に掲載または掲載予定のもの） ② 内科専門医の取得 ③ 研究経過報告書（1～3 年の各年次末）
研究項目	内科領域における各種疾患の病態解明とその臨床応用 下記の内科領域における各種の臨床的研究 内分泌代謝疾患、糖尿病、生活習慣病、 血液疾患、造血器悪性腫瘍や癌の治療、造血幹細胞移植術、 消化器疾患、肝疾患、 脳血管障害、神経内科疾患：膠原病、免疫疾患 腎臓疾患、呼吸器疾患、 動脈硬化、循環器疾患 学会発表、博士論文作成（疾病の成因、新しい安全な診断・検査・治療法の開発と評価、臨床疫学などの患者に対する診療を通じた臨床研究をテーマとする） 各医学専門学会での専門医資格取得を視野に入れた診療・治療技術の習得
準備学習（予習・復習）	各領域における最新の診療ガイドラインを確認する。研究に関しては各専門分野におけるハイ・インパクトジャーナルより最新の情報を入手する。トランスレーショナルな分野においては基礎医学と臨床医学のいずれにも興味を持ち、情報収集に努める。

2026 年度講義シラバス（1）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	総合診療病態論 I-A （ プライマリケア病態論 I-A ）			必修/選択	必修
担当教員	大平 善之	担当教員連絡先	内線 3639、3640		
単位数	1単位（前期）	履修年次	1年		
テーマと目的	プライマリケアに必要な病態診断学を学ぶ				
講義計画	プライマリケアに必要な種々の症候や検査結果の意義を理解し、病態診断に至る過程について詳述する。				
達成目標	臨床統計学も含め鑑別診断を行ないながら病態診断が行える。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	プライマリケアの知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	意識障害 ①	1	
2	意識障害 ②	2	
3	意識障害 ③	3	
4	不整脈 ①	4	
5	不整脈 ②	5	
6	心不全 ①	6	
7	心不全 ②	7	
8	不明熱 ①	8	
9	不明熱 ②	9	
10	不明熱 ③	10	
11	頭痛 ①	11	
12	頭痛 ②	12	
13	頭痛 ③	13	
14	ショック ①	14	
15	ショック ②	15	

2026 年度講義シラバス（2）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	総合診療病態論 I-B （ プライマリケア病態論 I-B ）			必修/選択	必修
担当教員	大平 善之	担当教員連絡先	内線 3639、3640		
単位数	1単位（後期 1）	履修年次	1年		
テーマと目的	プライマリケアに必要な病態診断学を学ぶ				
講義計画	プライマリケアに必要な種々の症候や検査結果の意義を理解し、病態診断に至る過程について詳述する。				
達成目標	臨床統計学も含め鑑別診断を行ないながら病態診断が行える。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	プライマリケアの知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1		1	ショック ③
2		2	電解質異常 ①
3		3	電解質異常 ②
4		4	電解質異常 ③
5		5	胸痛 ①
6		6	胸痛 ②
7		7	胸痛 ③
8		8	腹痛 ①
9		9	腹痛 ②
10		10	腹痛 ③
11		11	動脈硬化 ①
12		12	動脈硬化 ②
13		13	動脈硬化 ③
14		14	四肢のしびれ ①
15		15	四肢のしびれ ②

2026 年度講義シラバス（3）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	呼吸器内視鏡学Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 81545		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	1年		
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する				
講義計画	症例に基づいて，気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する				
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表，受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	気管支鏡の歴史	1	
2	気管支鏡の適応と禁忌 1	2	
3	気管支鏡の適応と禁忌 2	3	
4	軟性気管支鏡の機器と準備 1	4	
5	周辺機器 1	5	
6	局所麻酔 1	6	
7	気管支鏡の挿入と観察 1	7	
8	気管支の解剖 1	8	
9	気管支鏡所見 － 正常編 1	9	
10	気管支鏡所見 － 異常編 1	10	
11	気管支鏡所見 － 異常編 2	11	
12	気管支鏡所見 － 異常編 3	12	
13	胸腔鏡の歴史 1	13	
14	Fexi－rigid type 胸腔胸の適応と禁忌 1	14	
15	Fexi－rigid type 胸腔鏡の機器と準備 1	15	

2026 年度講義シラバス（4）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	呼吸器内視鏡学Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80484		
単位数	1単位（後期 1）	履修年次	1年		
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する				
講義計画	症例に基づいて気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する				
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表，受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1		1	経気管支的肺生検 1
2		2	経気管支的肺生検 2
3		3	経気管支的肺生検 3
4		4	EBUS － 中枢気道への応用 1
5		5	EBUS － 中枢気道への応用 2
6		6	EBUS － 中枢気道への応用 3
7		7	EBUS － 中枢気道への応用 4
8		8	EBUS － 末梢病変への応用 1
9		9	EBUS － 末梢病変への応用 2
10		10	EBUS － 末梢病変への応用 3
11		11	EBUS － 末梢病変への応用 4
12		12	flexi－rigid type 胸腔鏡の手技 1
13		13	胸腔鏡所見 1
14		14	胸腔鏡所見 2
15		15	胸腔鏡の合併症と対処法 1

2026 年度講義シラバス（5）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	循環器診断学 I-A			必修/選択	必修
担当教員	明石 嘉浩	担当教員連絡先	内線 3313		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	1年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の診断戦略を把握する				
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して診断方法について理解し、管理方法を検討する				
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について診断方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた診断戦略を計画できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	循環器診断学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	循環器疾患と心電図 ①	1	
2	循環器疾患と心電図 ②	2	
3	循環器疾患と心電図 ③	3	
4	循環器疾患の胸部単純写真 ①	4	
5	循環器疾患の胸部単純写真 ②	5	
6	徐脈性不整脈の診断方法 ①	6	
7	徐脈性不整脈の診断方法 ②	7	
8	頻脈性不整脈の診断方法 ①	8	
9	頻脈性不整脈の診断方法 ②	9	
10	心電図 P 波からなにがわかるか	10	
11	心電図 QRS 波からなにがわかるか	11	
12	心電図 T 波からなにがわかるか	12	
13	心電図 ST 部分からなにがわかるか	13	
14	心電図 U 波からなにがわかるか	14	
15	心電図 QT からなにがわかるか	15	

2026 年度講義シラバス（6）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	循環器診断学 I-B			必修/選択	必修
担当教員	明石 嘉浩	担当教員連絡先	内線 3313		
単位数	1単位（後期 1）	履修年次	1年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の診断戦略を把握する				
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して診断方法について理解し、管理方法を検討する				
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について診断方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた診断戦略を計画できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	循環器診断学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	Brugada 症候群の診断について
2		2	WPW 症候群の診断について
3		3	脚ブロックの診断について
4		4	虚血性心疾患の診断法について
5		5	弁膜症の診断方法について
6		6	心臓超音波検査でどこまでわかるか
7		7	心臓超音波検査でわからないこと
8		8	M モード法でわかること
9		9	B モード法でわかること
10		10	ドップラー法でわかること
11		11	経食道エコーでわかること
12		12	心疾患と CT 検査
13		13	大動脈疾患の診断方法
14		14	肺循環障害の診断方法
15		15	心疾患と MRI 検査

2026 年度講義シラバス（7）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	消化器病総論 I-A			必修/選択	必修
担当教員	立石 敬介	担当教員連絡先	内線 3470		
単位数	1 単位（前期）	履修年次	1 年		
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。				
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。				
達成目標	1.基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2.基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	消化器・肝臓病の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	1. 消化管疾患の検査の進め方 ①	1	
2	1. 消化管疾患の検査の進め方 ②	2	
3	1. 消化管疾患の検査の進め方 ③	3	
4	1. 消化管疾患の検査の進め方 ④	4	
5	1. 消化管疾患の検査の進め方 ⑤	5	
6	2. 消化管運動 ①	6	
7	2. 消化管運動 ②	7	
8	2. 消化管運動 ③	8	
9	2. 消化管運動 ④	9	
10	3. 消化・吸収 ①	10	
11	3. 消化・吸収 ②	11	
12	3. 消化・吸収 ③	12	
13	3. 消化・吸収 ④	13	
14	3. 消化・吸収 ⑤	14	
15	4. 消化管ホルモン ①	15	

2026 年度講義シラバス（8）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	消化器病総論 I-B			必修/選択	必修
担当教員	立石 敬介	担当教員連絡先	内線 3470		
単位数	1単位（後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。				
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。				
達成目標	1.基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2.基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	消化器・肝臓病の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1		1	4. 消化管ホルモン ②
2		2	4. 消化管ホルモン ③
3		3	4. 消化管ホルモン ④
4		4	5. 消化管の症候 ①
5		5	5. 消化管の症候 ②
6		6	5. 消化管の症候 ③
7		7	5. 消化管の症候 ④
8		8	6. 肝機能検査の解釈 ①
9		9	6. 肝機能検査の解釈 ②
10		10	6. 肝機能検査の解釈 ③
11		11	6. 肝機能検査の解釈 ④
12		12	6. 肝機能検査の解釈 ⑤
13		13	6. 肝機能検査の解釈 ⑥
14		14	6. 肝機能検査の解釈 ⑦
15		15	6. 肝機能検査の解釈 ⑧

2026 年度講義シラバス（9）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	腎臓病態学Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	柴垣 有吾	担当教員連絡先	PHS 80047		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	1 年･2 年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な腎疾患の病態を理解する				
講義計画	種々の基本的な腎疾患症例を通して病態を理解し、管理方法を検討する				
達成目標	1. 基本的な腎疾患について病態を論理的に説明できる 2. 基本的な腎疾患の病態に基づいた管理を計画できる				
教科書･参考書	別途指示				
準備学習(予習･復習･時間)	事前に参考資料をよく読んでおくこと。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定･学位授与の方針との関連性	腎臓病態学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（1）	1	
2	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（2）	2	
3	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（3）	3	
4	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（4）	4	
5	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（5）	5	
6	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（6）	6	
7	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（7）	7	
8	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（8）	8	
9	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（9）	9	
10	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（10）	10	
11	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（11）	11	
12	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（12）	12	
13	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（13）	13	
14	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（14）	14	
15	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（15）	15	

2026 年度講義シラバス（10）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	腎臓病態学Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	柴垣 有吾	担当教員連絡先	PHS 80047		
単位数	1単位（後期 1）	履修年次	1 年･2 年		
テーマと目的	症例に基づいて特殊な腎疾患の病態を理解する				
講義計画	種々の特殊な腎疾患症例を通して病態を理解し、管理方法を検討する				
達成目標	1．特殊な腎疾患について病態を論理的に説明できる 2．特殊な腎疾患の病態に基づいた管理を計画できる				
教科書･参考書	別途指示				
準備学習(予習･復習･時間)	事前に参考資料をよく読んでおくこと。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定･学位授与の方針との関連性	腎臓病態学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1		1	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（1）
2		2	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（2）
3		3	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（3）
4		4	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（4）
5		5	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（5）
6		6	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（6）
7		7	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（7）
8		8	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（8）
9		9	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（9）
10		10	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（10）
11		11	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（11）
12		12	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（12）
13		13	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（13）
14		14	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（14）
15		15	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ（15）

2026 年度講義シラバス（11）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	臨床代謝学Ⅱ-A			必修/選択	必修
担当教員	曽根 正勝	担当教員連絡先	内線 3149		
単位数	1単位（前期1）	履修年次	2年		
テーマと目的	糖尿病の最新の知識と臨床的アプローチについて学ぶ。				
講義計画	糖尿病症例を通して病態を理解し、診断・治療法を検討する。				
達成目標	1.糖尿病について病態を論理的に説明できる。 2.糖尿病について病態に基づいた診断・治療計画を作成できる。				
教科書・参考書	別途指示する				
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1 時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	臨床代謝学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	糖代謝総論	1	
2	脂質代謝・リポ蛋白代謝総論	2	
3	糖尿病の概念	3	
4	糖尿病における糖脂質代謝	4	
5	糖尿病の診断・病型分類	5	
6	二次性糖尿病・遺伝子関連	6	
7	糖尿病と妊娠	7	
8	インスリン分泌能・インスリン感受性	8	
9	糖代謝関連検査	9	
10	1型糖尿病総論（1）：病態生理	10	
11	1型糖尿病総論（2）：検査	11	
12	2型糖尿病総論（1）：病態生理	12	
13	2型糖尿病総論（2）：検査	13	
14	糖尿病各論（1）：急性合併症	14	
15	糖尿病各論（2）：慢性合併症総論	15	

2026 年度講義シラバス（12）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	臨床代謝学Ⅱ-B			必修/選択	必修
担当教員	曽根 正勝	担当教員連絡先	内線 3149		
単位数	1単位（後期1）	履修年次	2年		
テーマと目的	糖尿病の最新の知識と臨床的アプローチについて学ぶ。				
講義計画	糖尿病症例を通して病態を理解し、診断・治療法を検討する。				
達成目標	1.糖尿病について病態を論理的に説明できる。 2.糖尿病について病態に基づいた診断・治療計画を作成できる。				
教科書・参考書	別途指示する				
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1 時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	臨床代謝学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1		1	慢性合併症各論 :細小血管障害
2		2	慢性合併症各論 :大血管障害
3		3	低血糖総論
4		4	糖尿病の治療:食事療法
5		5	糖尿病の治療:運動療法
6		6	治療:薬物療法・経口薬（1）
7		7	治療:薬物療法・経口薬（2）
8		8	治療:薬物療法 :インスリン療法（1）
9		9	治療:薬物療法 :インスリン療法（2）
10		10	治療:薬物療法 :インスリン療法（3）
11		11	糖尿病関連の最新のトピックス
12		12	脂質異常症総論:病態生理
13		13	脂質異常症各論（1）: 診断・検査
14		14	脂質異常症各論（2）: 治療
15		15	脂質異常症各論（3）: 治療

2026 年度講義シラバス（13）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	神経症候学特論 - A			必修/選択	必修
担当教員	山野 嘉久	担当教員連絡先	内線 3150		
単位数	1単位（前期1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	神経疾患の局所診断における神経症候学的アプローチについて学ぶ 入院症例をもとに講義するので内容は適宜入れ替えることがある				
講義計画	局所診断学の意義を神経放射線学的診断と対比させて理解する				
達成目標	1.神経症候学的観点から各疾患の局所診断ができる 2.神経放射線学的診断と神経症候学とを対比して病態を説明できる				
教科書・参考書	別途指示する				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	神経疾患に対する基礎的知識を涵養し、研究開発に資する unmet needs を見出す。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	前頭葉症状のとらえ方	1	
2	頭頂葉症状のとらえ方	2	
3	側頭葉症状のとらえ方	3	
4	後頭葉症状のとらえ方	4	
5	錐体路徴候	5	
6	小脳失調	6	
7	筋委縮の分布	7	
8	感覚障害のとらえ方	8	
9	認知機能のとらえ方	9	
10	離断症候群	10	
11	失認	11	
12	失行	12	
13	失語	13	
14	前期のまとめ（1）	14	
15	前期のまとめ（2）	15	

2026 年度講義シラバス（14）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	神経症候学特論 - B			必修/選択	必修
担当教員	山野 嘉久	担当教員連絡先	内線 3150		
単位数	1単位（後期）	履修年次	2 年		
テーマと目的	神経疾患の局所診断における神経症候学的アプローチについて学ぶ 入院症例をもとに講義するので内容は適宜入れ替えることがある				
講義計画	局所診断学の意義を神経放射線学的診断と対比させて理解する				
達成目標	1.神経症候学的観点から各疾患の局所診断ができる 2.神経放射線学的診断と神経症候学とを対比して病態を説明できる				
教科書・参考書	別途指示する				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	神経疾患に対する基礎的知識を涵養し、研究開発に資する unmet needs を見出す。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1		1	症候学症例検討（1）
2		2	症候学症例検討（2）
3		3	症候学症例検討（3）
4		4	症候学症例検討（4）
5		5	症候学症例検討（5）
6		6	症候学症例検討（6）
7		7	症候学症例検討（7）
8		8	症候学症例検討（8）
9		9	症候学症例検討（9）
10		10	症候学症例検討（10）
11		11	症候学症例検討（11）
12		12	症候学症例検討（12）
13		13	症候学症例検討（13）
14		14	後期のまとめ（1）
15		15	後期のまとめ（2）

2026 年度講義シラバス（15）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	リウマチ性疾患 Up To Date−Ⅱ A			必修/選択	必修
担当教員	川畑 仁人	担当教員連絡先	内線 4119		
単位数	1 単位（前期）	履修年次	2年		
テーマと目的	日進月歩のリウマチ膠原病疾患に関する新知見を学ぶ				
講義計画	抄読会形式で、最新論文の成績を吟味、評価し、診療への役立て方を学ぶ。				
達成目標	研究の背景、仮説、方法論、結果のまとめ方、結果の評価方法を理解する。 得られた知見を臨床に応用する方法を理解する。				
教科書・参考書	最新論文				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間				
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	リウマチ膠原病疾患に関する新知見をさらに追及し、自身の研究を遂行し論文を作成して発表する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	その時点の最新論文をとりあげるため、内容は一週間前に決まる。	1	
2	〃	2	
3	〃	3	
4	〃	4	
5	〃	5	
6	〃	6	
7	〃	7	
8	〃	8	
9	〃	9	
10	〃	10	
11	〃	11	
12	〃	12	
13	〃	13	
14	〃	14	
15	評価日	15	

2026 年度講義シラバス（16）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	リウマチ性疾患 Up To Date−Ⅱ B			必修/選択	必修
担当教員	川畑 仁人	担当教員連絡先	内線 4119		
単位数	1 単位（後期）	履修年次	2年		
テーマと目的	日進月歩のリウマチ膠原病疾患に関する新知見を学ぶ				
講義計画	抄読会形式で、最新論文の成績を吟味、評価し、診療への役立て方を学ぶ。				
達成目標	研究の背景、仮説、方法論、結果のまとめ方、結果の評価方法を理解する。 得られた知見を臨床に応用する方法を理解する。				
教科書・参考書	最新論文				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間				
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	リウマチ膠原病疾患に関する新知見をさらに追及し、自身の研究を遂行し論文を作成して発表する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1		1	その時点の最新論文をとりあげるため、内容は一週間前に決まる。
2		2	〃
3		3	〃
4		4	〃
5		5	〃
6		6	〃
7		7	〃
8		8	〃
9		9	〃
10		10	〃
11		11	〃
12		12	〃
13		13	〃
14		14	〃
15		15	評価日

2026 年度講義シラバス（17）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	血液細胞遺伝学- A			必修/選択	必修
担当教員	新井 文子	担当教員連絡先	内線 3372		
単位数	1単位（前期）	履修年次	2 年		
テーマと目的	血液腫瘍における染色体異常について診断および治療との関連を学ぶ。				
講義計画	白血病、リンパ腫、骨髄異形成症候群および多発性骨髄腫にみられる染色体異常をがん遺伝子と関連づけて詳述する。				
達成目標	1.血液腫瘍にみられる染色体異常を述べることができる。 2.血液腫瘍の診断および治療における染色体異常と遺伝子の関連を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考資料を読み、配布資料の内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	血液細胞遺伝学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 （出席㊞）	後期(回)	内 容 （出席㊞）
1	染色体総論（1）構造	1	
2	染色体総論（2）細胞周期と染色体	2	
3	染色体総論（3）G-band 法	3	
4	染色体総論（4）FISH 法	4	
5	染色体総論（5）SKY と M-FISH	5	
6	染色体異常（1）正常変異	6	
7	染色体総論（2）数の異常	7	
8	染色体総論（3）構造異常	8	
9	染色体総論（4）微細欠失症候群	9	
10	染色体総論（5）性染色体異常	10	
11	染色体総論（6）リプロダクションの異常	11	
12	染色体総論（7）染色体不安定性	12	
13	白血病の核間期 FISH 分析	13	
14	構成的染色体異常	14	
15	Y 染色体の喪失	15	

2026 年度講義シラバス（18）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	血液細胞遺伝学- B			必修/選択	必修
担当教員	新井 文子	担当教員連絡先	内線 3372		
単位数	1単位（後期）	履修年次	2 年		
テーマと目的	血液腫瘍における染色体異常について診断および治療との関連を学ぶ。				
講義計画	白血病、リンパ腫、骨髄異形成症候群および多発性骨髄腫にみられる染色体異常をがん遺伝子と関連づけて詳述する。				
達成目標	1.血液腫瘍にみられる染色体異常を述べることができる。 2.血液腫瘍の診断および治療における染色体異常と遺伝子の関連を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考資料を読み、配布資料の内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	血液細胞遺伝学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 （出席㊞）	後期(回)	内 容 （出席㊞）
1		1	染色体とがん遺伝子（1）
2		2	染色体とがん遺伝子（2）
3		3	AML の染色体異常（1）
4		4	AML の染色体異常（2）
5		5	AML の染色体異常（3）
6		6	MDS の染色体異常（1）
7		7	MDS の染色体異常（2）
8		8	ALL の染色体異常
9		9	Ph 染色体
10		10	悪性リンパ腫の染色体異常（1）
11		11	悪性リンパ腫の染色体異常（2）
12		12	悪性リンパ腫の染色体異常（3）
13		13	悪性リンパ腫の染色体異常（4）
14		14	多発性骨髄腫の染色体異常（1）
15		15	多発性骨髄腫の染色体異常（2）

2026 年度講義シラバス（19）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	プライマリケア症候論　実習 I-B			必修/選択	必修
担当教員	大平 善之	担当教員連絡先	内線 3639		
単位数	1 単位（後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	プライマリケアにおいて頻度の高い症候とその捉え方を習得する。				
講義計画	種々の症候について、その出現機序、病態について詳述する。				
達成目標	症候を正しく捉え、病態を考察することができる。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療　Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	プライマリケアの知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	体重減少 ①
2		2	体重減少 ②
3		3	腰痛 ①
4		4	腰痛 ②
5		5	全身倦怠感 ①
6		6	全身倦怠感 ②
7		7	食欲不振 ①
8		8	食欲不振 ②
9		9	呼吸困難 ①
10		10	呼吸困難 ②
11		11	呼吸困難 ③
12		12	咳・痰 ①
13		13	咳・痰 ②
14		14	歩行障害 ①
15		15	歩行障害 ②

2026 年度講義シラバス（20）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	呼吸器内視鏡実習Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	井上 健男	担当教員連絡先	内線 81307		
単位数	1単位（後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	気管支鏡と flexi-rigid type 胸腔鏡の実技を習得する				
講義計画	気管支鏡の手技を実施する。 flexi-rigid type 胸腔鏡の手技を実施する。				
達成目標	気管支鏡を用いて内視鏡的観察ができる。 経気管支肺生検ができる。 flexi-rigid type 胸腔鏡を用いて観察と生検ができる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と実習態度，および手技の習熟度，問題点の理解度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1		1	気管支鏡所見 5
2		2	気管支鏡所見 6
3		3	気管支鏡所見 7
4		4	EBUS － TBNA 1
5		5	EBUS － TBNA 2
6		6	EBUS － TBNA 3
7		7	蛍光気管支鏡 1
8		8	蛍光気管支鏡 2
9		9	NBI 1
10		10	NBI 2
11		11	flexi-rigid type 胸腔胸の手技 1
12		12	flexi-rigid type 胸腔鏡の手技 2
13		13	胸腔鏡所見 1
14		14	胸腔鏡所見 2
15		15	胸腔鏡所見 3

2026 年度講義シラバス（21）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	消化器内視鏡学実習Ⅱ−A			必修/選択	必修
担当教員	立石 敬介	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	1 単位（前期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	消化器内視鏡学の基本的な技術を習得する。				
講義計画	上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を理論的に理解し、習得させる。				
達成目標	1.消化器内視鏡の原理を理解する。 2.上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	消化器内視鏡の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	内視鏡原理（Ⅰ）	1	
2	内視鏡原理（Ⅱ）	2	
3	前処置（Ⅰ）	3	
4	前処置（Ⅱ）	4	
5	上部消化管内視鏡挿入（Ⅰ）	5	
6	上部消化管内視鏡挿入（Ⅱ）	6	
7	上部消化管内視鏡挿入（Ⅲ）	7	
8	下部消化管内視鏡挿入（Ⅰ）	8	
9	下部消化管内視鏡挿入（Ⅱ）	9	
10	下部消化管内視鏡挿入（Ⅲ）	10	
11	内視鏡画像特論（Ⅰ）	11	
12	内視鏡画像特論（Ⅱ）	12	
13	内視鏡画像特論（Ⅲ）	13	
14	抄読会	14	
15	抄読会	15	

2026 年度講義シラバス（22）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	救急医学総論　I			必修/選択	選択
担当教員	藤谷 茂樹	担当教員連絡先	内線 3931		
単位数	2 単位（前期）	履修年次	1･2 年		
テーマと目的	救急医療と救急医学について、その本質を理解する				
講義計画	重症度、緊急度の高い急性病態について理解する 急性病態に対する初期対応の意義を理解する				
達成目標	総ての救急患者の急性病態の重症度と緊急度を判断し、トリアージできる 軽症から重症まで急性病態に応じた初期対応の理解とそれを実施できる				
教科書･参考書	救急診療指針（へるす出版）、 標準救急医学(医学書院) Emergency Medicine (Mc Graw Hill)				
準備学習(予習･復習･時間)	救急医学は、病態を目の前にして、緊急度 と 重症度 とを判断する必要がある。主な、頻繁に遭遇する救急病態における、夫々の緊急度と重症度を判断できるように学習する。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での討論において総合的に評価する				
卒業認定･学位授与の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	緊急度	1	
2	バイタルサイン	2	
3	トリアージ	3	
4	重症度	4	
5	リスク層別化	5	
6	高エネルギー損傷	6	
7	ABCDE アプローチ	7	
8	メディカルコントロール	8	
9	プレホスピタルケア	9	
10	口頭指示	10	
11	JPTEC	11	
12	ウツタイン様式	12	
13	外傷データバンク	13	
14	救急救命士	14	
15	ドクターヘリ	15	

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	救急医学総論 Ⅱ			必修/選択	選択
担当教員	藤谷 茂樹	担当教員連絡先	内線 3931		
単位数	2 単位（後期）	履修年次	1･2 年		
テーマと目的	救急医療と救急医学について、その本質を理解する				
講義計画	重症度、緊急度の高い急性病態について理解する 急性病態に対する初期対応の意義を理解する				
達成目標	総ての救急患者の急性病態の重症度と緊急度を判断し、トリアージできる 軽症から重症まで急性病態に応じた初期対応の理解とそれを実施できる				
教科書･参考書	救急診療指針（へるす出版）、 標準救急医学(医学書院) Emergency Medicine (Mc Graw Hill)				
準備学習(予習･復習･時間)	救急医学は、病態を目の前にして、緊急度 と 重症度 とを判断する必要がある。主な、頻繁に遭遇する救急病態における、夫々の緊急度と重症度を判断できるように学習する。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での討論において総合的に評価する				
卒業認定･学位授与の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1		1	医療倫理 1
2		2	医療倫理 2
3		3	医療倫理 3
4		4	集中治療総論 1
5		5	集中治療総論 2
6		6	集中治療総論 3
7		7	呼吸 総論
8		8	呼吸 基礎 呼吸生理
9		9	呼吸不全
10		10	呼吸 気道確保
11		11	呼吸 酸素療法
12		12	呼吸 人工呼吸
13		13	呼吸 急性期リハビリ
14		14	呼吸 呼吸不全、 ARDS
15		15	呼吸 処置、対応

2026 年度講義シラバス（24）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	内科学特論			必修/選択	選択
担当教員	山野 嘉久		担当教員連絡先	内線 3150	
単位数	1単位（通年、月1回2時間）		履修年次	2 年	
テーマと目的	内科疾患の最新の知識と臨床的アプローチについて学ぶ				
講義計画	各臓器別内科から提示された内科疾患の最新の知識を整理し、内科的診断治療のアプローチについて理解する				
達成目標	1. 個々の内科疾患の概念、病態を説明できる 2. 疾患概念の変化をもたらした研究成果の概要を説明できる				
教科書・参考書	別途指示する				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	神経疾患に対する基礎的知識を涵養し、研究開発に資する unmet needs を見出す。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	臓器別内科の最新知識（1）	1	臓器別内科の最新知識（16）
2	臓器別内科の最新知識（2）	2	臓器別内科の最新知識（17）
3	臓器別内科の最新知識（3）	3	臓器別内科の最新知識（18）
4	臓器別内科の最新知識（4）	4	臓器別内科の最新知識（19）
5	臓器別内科の最新知識（5）	5	臓器別内科の最新知識（20）
6	臓器別内科の最新知識（6）	6	臓器別内科の最新知識（21）
7	臓器別内科の最新知識（7）	7	臓器別内科の最新知識（22）
8	臓器別内科の最新知識（8）	8	臓器別内科の最新知識（23）
9	臓器別内科の最新知識（9）	9	臓器別内科の最新知識（24）
10	臓器別内科の最新知識（10）	10	臓器別内科の最新知識（25）
11	臓器別内科の最新知識（11）	11	臓器別内科の最新知識（26）
12	臓器別内科の最新知識（12）	12	臓器別内科の最新知識（27）
13	臓器別内科の最新知識（13）	13	臓器別内科の最新知識（28）
14	臓器別内科の最新知識（14）	14	臓器別内科の最新知識（29）
15	臓器別内科の最新知識（15）	15	臓器別内科の最新知識（30）

2026 年度講義シラバス（25）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	感染症学概論			必修/選択	選択
担当教員	國島 広之		担当教員連絡先	内線 3429	
単位数	2単位（前期 1,後期 1）		履修年次	1･2 学年	
テーマと目的	感染症の成り立ちを理解し、診断や薬剤開発に関する知識を学ぶ。				
講義計画	感染症の基本概念、個々の病原体の増殖様式や宿主との相互関係について講義を通じて学習し、感染症の診断・治療・予防法を詳述する。				
達成目標	感染症の診断、治療、予防法を理解する。				
教科書･参考書	Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases: 8ed (Saunders)				
準備学習(予習･復習･時間)	感染症学、臨床微生物学、感染制御学の概論を学ぶために、事前に参考図書を読むこと　1 時間				
成績評価法	出席、講義内での討論による総合評価				
卒業認定･学位授与の方針との関連性	感染症学の知識に基づき自立して研究を行い、論文を作成して発表する能力				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	Molecular Perspective	1	Anti-Infective Therapy
2	Microbiome	2	Nosocominal Infections
3	Probiotics	3	Infections in Special Hosts
4	Host Defense Mechanisms	4	Surgical Site Infections
5	Adaptive Immunity	5	Immunization
6	Mucosal Immunity	6	Zoonoses
7	Granulocytic Phagocytes	7	Environment
8	Complement and Deficiencies	8	Protection of Travelers
9	Human Genetics	9	Infections in Returning Travelers
10	Nutrition	10	New Bugs　(1)
11	Suspected Immunodeficiency	11	New Bugs　(2)
12	Epidemiologic Principles	12	New Bugs　(3)
13	Emerging and Reemerging	13	New Bugs　(4)
14	Bioterrorism	14	New Bugs　(5)
15	Microbiology Laboratory	15	後期総合討論と発表

【 49-2 】2026 年度　大学院シラバス

専攻分野/コース （英文名）	高度臨床医育成コース（外科学） （Training Course for Physicians with Professional Skills ）
研究指導教員	民上　真也　縄田　寛　　佐治　久　津川　浩一郎 古田　繁行　藤谷　茂樹
研究・教育の概略	【教育目標】 医の倫理を体得し、医療を適正に実践すべく一定の修練を経て、診断、手術および術前後の管理・処置・ケアなど一般外科医療に関する標準的な知識と技量を身につけることを目標とする。 【取得専門医】 外科学会専門医 【ローテーション】 大学院 1 年目、2 年目： 3 ヶ月を 1 クールとして、心臓血管外科、乳腺内分泌外科、小児外科、呼吸器外科、救急医学をそれぞれ 1 クール、消化器一般外科 3 クールローテーションする。それぞれの 3 ヶ月間で講義 2 単位、実習 1 単位を受講する。また、外科専門医取得に必要な手術経験をつむ。 ただし、大学院入学時にすでに外科学会専門医取得のための十分な経験のあるものに対しては、当該診療科のローテーションを免除し、別途プログラムを用意する。 大学院 3 年目、4 年目： 各人の希望する部門において、さらなる知識及び技量の習得に努め、外科学会専門医取得を目指すとともに、サブスペシャリティ専門医の取得を目指す。また、基礎的あるいは臨床的な研究を行い、学位取得をめざす。
研究項目	1. 上部・下部消化管、肝胆膵、各臓器の外科手術手技を習得する。 2. がん治療の最前線、終末期医療、疼痛コントロールを理解する。 3. 術前、術後の栄養管理、SSI 全般にわたる最新の EBM を学習する。 4. 心臓外科では開心術における補助循環の原理と実践を習得する。 5. 呼吸器外科では呼吸器循環の病態生理を習得する。 6. 小児外科、乳腺・内分泌外科では、それぞれの基本的な診断学を理解する。 7. 救急・集中治療領域からは、外傷はじめ手術も生体侵襲であり、これに対する生体防御反応である炎症について学ぶ。炎症反応は本来生体防御機構であり、この平衡の乱れが生体にさらなる侵襲を与え、重症化させる要因となる。
準備学習（予習・復習）	標準外科学、がん疼痛緩和ケア Q&A、心臓血管外科管理ハンドブック、呼吸器外科学、系統小児外科学、乳がん診断ガイドラインなどを参照し、参考資料に目を通し、講義後は配布資料で復習をおこなう。

2026 年度講義シラバス（1）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	消化器・一般外科クリニカルラーニング Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	民上 真也		担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	2 単位（3ケ月・7・8・9 月）		履修年次	1年・2 年	
テーマと目的	主に消化器一般外科の症例を検討し、画像診断、治療方針、手術等について学習する。				
講義計画	各種消化器一般外科の臨床画像診断、治療法を解説する。				
達成目標	各種消化器一般外科疾患に関して、特に消化器悪性疾患の診療ガイドラインに沿った EBM を習熟する。				
教科書・参考書	標準外科学（医学書院、2016、第 14 版）				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	消化器外科手術に必要な解剖、病理、画像診断を理解し説明できる。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	消化器一般外科診断学総論	1	
2	腹壁外科（1）	2	
3	腹壁外科（2）	3	
4	上部消化管疾患診断学総論	4	
5	上部消化管疾患診断学各論（1）	5	
6	上部消化管疾患診断学各論（2）	6	
7	食道癌外科治療学（1）	7	
8	食道癌外科治療学（2）	8	
9	胃癌外科治療学各論（1）	9	
10	胃癌外科治療学各論（2）	10	
11	消化器一般外科診断学・治療学総括	11	
12	試験、評価	12	
13		13	
14		14	
15		15	

2026 年度講義シラバス（2）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	消化器・一般外科クリニカルラーニングⅡ			必修/選択	必修
担当教員	内藤　正規		担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	2 単位（3ケ月・10・11・12 月）		履修年次	1 年・2 年	
テーマと目的	主に消化器一般外科の症例を検討し、画像診断、治療方針、手術等について学習する。				
講義計画	各種消化器一般外科の臨床画像診断、治療法を解説する。				
達成目標	各種消化器一般外科疾患に関して、特に消化器悪性疾患の診療ガイドラインに沿ったEBM を習熟する。				
教科書・参考書	標準外科学（医学書院、2016、第 14 版）				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	患者の状態（合併症の有無、サルコペニア等）を考慮し生理学的に全身状態を理解し、説明できる。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	消化管外科診断学総論
2		2	下部消化管疾患診断学総論
3		3	下部消化管疾患診断学各論（1）
4		4	下部消化管疾患診断学各論（2）
5		5	下部消化管疾患外科治療学総論
6		6	下部消化管疾患外科治療学（1）
7		7	下部消化管疾患外科治療学（2）
8		8	後腹膜臓器疾患診断学総論
9		9	後腹膜臓器疾患診断学各論
10		10	後腹膜臓器疾患外科治療学各論
11		11	脾疾患治療学
12		12	試験、評価
13		13	
14		14	
15		15	

2026 年度講義シラバス（3）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	消化器・一般外科クリニカルラーニングⅢ			必修/選択	必修
担当教員	小林 慎二郎		担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	2 単位（3ケ月・1・2・3 月）		履修年次	1年・2 年	
テーマと目的	主に消化器一般外科の症例を検討し、画像診断、治療方針、手術等について学習する。				
講義計画	各種消化器一般外科の臨床画像診断、治療法を解説する。				
達成目標	各種消化器一般外科疾患に関して、特に消化器悪性疾患の診療ガイドラインに沿ったEBM を習熟する。				
教科書・参考書	標準外科学（医学書院、2016、第 14 版）				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	患者および家族の置かれた社会的側面を理解し、十分なインフォームドコンセントができる。				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	肝疾患診断学（1）
2		2	肝疾患診断学（2）
3		3	肝疾患外科治療学（1）
4		4	肝疾患外科治療学（2）
5		5	胆道疾患診断学
6		6	胆道疾患外科治療学（1）
7		7	胆道疾患外科治療学（2）
8		8	膵疾患診断学
9		9	膵疾患外科治療学（1）
10		10	膵疾患外科治療学（2）
11		11	消化器外科診断治療学総括
12		12	試験、評価
13		13	
14		14	
15		15	

2026 年度講義シラバス（4）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	消化器・一般外科（上部）手術スキル実習 （1）			必修/選択	必修
担当教員	榎本 武治	担当教員連絡先	内線 3213		
単位数	1単位（3ケ月・7・8・9 月）	履修年次	1年・2 年		
テーマと目的	消化器一般外科手術の専門手術手技を実習する。				
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。				
達成目標	上部消化管・一般外科解剖の理解と低難度から高難度の手術手技理解。				
教科書・参考書	標準外科学（医学書院、2016、第 14 版）				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終実技試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	食道・胃手術（開腹・鏡視下手術）の手順を理解し簡単な手技が行える。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 （出席㊞）	後期(回)	内 容 （出席㊞）
1	腹壁外科手術手技実習	1	
2	食道癌手術手技ビデオ研修	2	
3	開胸開腹食道癌手術手技実習（1）	3	
4	開胸開腹食道癌手術手技実習（2）	4	
5	胃癌幽門側胃切除手術ビデオ研修	5	
6	胃癌胃全摘術ビデオ研修	6	
7	胃癌手術手技スキル実習（1）	7	
8	胃癌手術手技スキル実習（2）	8	
9	腹腔鏡補助下胃癌手術ビデオ研修	9	
10	腹腔鏡補助下幽門側胃切除術手術実習	10	
11	手術手技総括	11	
12	試験、評価	12	
13		13	
14		14	
15		15	

2026 年度講義シラバス（5）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	消化器・一般外科（下部）手術スキル実習 （2）			必修/選択	必修
担当教員	民上 真也		担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1単位（3ケ月・10・11・12 月）		履修年次	1年・2 年	
テーマと目的	下部消化管外科、脾臓・後腹膜臓器の専門手術手技を実習する。				
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。				
達成目標	下部消化管外科解剖の理解と低難度から高難度の手術手技理解。				
教科書・参考書	大腸外科の最前線（永井書店）				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終実技試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	大腸手術（開腹・鏡視下手術）の手順を理解し簡単な手技が行える。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 （出席㊞）	後期(回)	内 容 （出席㊞）
1		1	結腸癌切除術手術手技ビデオ研修
2		2	直腸癌切除術手術手技ビデオ研修
3		3	右結腸切除術手術手技実習
4		4	横行結腸切除術手術手技実習
5		5	左結腸切除術手術手技実習
6		6	S 状結腸切除術手術手技実習
7		7	高位前方切除術手術手技実習
8		8	低位前方切除術手術手技実習
9		9	直腸切断術手術手技実習
10		10	後腹膜臓器手術手技実習
11		11	手術手技総括
12		12	試験、評価
13		13	
14		14	
15		15	

2026 年度講義シラバス（6）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	消化器・一般外科　手術スキル実習　（3）			必修/選択	必修
担当教員	小泉　哲	担当教員連絡先	内線 3213		
単位数	1単位（3ケ月・1・2・3 月）	履修年次	1年・2 年		
テーマと目的	肝胆膵外科手術の専門手術手技を実習する。				
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。				
達成目標	肝胆膵外科解剖の理解と低難度から高難度の肝胆膵外科手術手技の理解。				
教科書・参考書	肝臓外科、胆道外科、膵外科の要点と盲点（文光堂）				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終実技試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	簡単膵手術（開腹・鏡視下手術）の手順を理解し簡単な手技が行える。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	肝切除手術手技ビデオ研修
2		2	胆道手術手術手技ビデオ研修
3		3	膵手術手術手技ビデオ研修
4		4	腹腔鏡下胆嚢摘出術手術手技実習（1）
5		5	腹腔鏡下胆嚢摘出術手術手技実習（2）
6		6	肝癌肝亜区域、区域切除手術手技実習
7		7	肝癌肝葉切除手術手技実習
8		8	胆管癌拡大葉切除手術手技実習
9		9	膵頭十二指腸切除手技実習（1）
10		10	膵頭十二指腸切除手技実習（2）
11		11	手術手技総括
12		12	試験、評価
13		13	
14		14	
15		15	

2026 年度講義シラバス（7）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	心臓血管外科クリニカルラーニング			必修/選択	必修
担当教員	縄田　寛	担当教員連絡先	内線 3230		
単位数	2単位（3ケ月・10・11・12 月）	履修年次	1年・2 年		
テーマと目的	心臓血管外科の手術症例を中心に検討を行い、病態、画像診断、手術適応、治療方針、術前術後管理などについて学習する。				
講義計画	心臓血管外科疾患の病態、画像診断、治療法に関して解説する。				
達成目標	心臓血管外科疾患の病態を理解し、適切な画像診断を選択して読影できるようになる。さらに、治療方針、手術適応、術前術後管理を習得する。				
教科書・参考書	新心臓血管外科テキスト　中外医学社 心臓血管外科手術のための解剖学　MEDICAL VIEW				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書等を参考に学習を行う。　1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	心臓血管外科クリニカルラーニングを通して、自身の研究を遂行する能力を習得する。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	心臓血管外科診断学総論
2		2	虚血性心疾患診断学各論
3		3	虚血性心疾患病態学各論
4		4	虚血性心疾患治療学各論（1）
5		5	虚血性心疾患治療学各論（2）
6		6	虚血性心疾患治療学各論（3）
7		7	弁膜症疾患診断学各論
8		8	弁膜症疾患病態学各論
9		9	先天性心疾患診断学各論
10		10	胸部大動脈疾患診断学各論
11		11	腹部大動脈疾患診断学各論
12		12	閉塞性動脈硬化症診断学各論
13		13	
14		14	
15		15	

2026 年度講義シラバス（8）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	心臓血管外科手術スキル実習			必修/選択	必修
担当教員	縄田　寛	担当教員連絡先	内線 3230		
単位数	1 単位（3ケ月・10・11・12 月）	履修年次	1年・2 年		
テーマと目的	心臓血管外科の専門手術手技を実習する。				
講義計画	手術書、ビデオによる手術手技の解説とシミュレーターを用いた手術手技の実習。				
達成目標	まず、心臓血管外科の基本的手術手技を熟知する。その後、各疾患の特殊な手術主義に関して習得する。				
教科書・参考書	新心臓血管外科テキスト　中外医学社 心臓血管外科手術のための解剖学　MEDICAL VIEW				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書等を参考に学習を行う。　1時間				
成績評価法	出席と最終実技試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	心臓血管外科手術スキル実習を通して、自身の研究を遂行する能力を習得する。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	心臓到達法（1）
2		2	心臓到達法（2）
3		3	心臓到達法（3）
4		4	心臓到達法（4）
5		5	開胸法（1）
6		6	開胸法（2）
7		7	開胸法（3）
8		8	開胸法（4）
9		9	人工心肺装着術（1）
10		10	人工心肺装着術（2）
11		11	人工心肺装着術（3）
12		12	人工心肺装着術（4）
13		13	
14		14	
15		15	

2026 年度講義シラバス（9）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	呼吸器外科クリニカルラーニング			必修/選択	必修
担当教員	佐治　久		担当教員連絡先	内線 3336	
単位数	2単位（3ケ月・1・2・3月）		履修年次	1年・2 年	
テーマと目的	呼吸器外科の手術症例を中心に検討を行い、病態、画像診断、手術適応、治療方針、術前術後管理などについて学習する。				
講義計画	呼吸器外科疾患の病態、画像診断、治療法に関して解説する。				
達成目標	呼吸器外科疾患の病態を理解し、適切な画像診断を選択して読影できるようになる。さらに、治療方針、手術適応、術前術後管理を習得する。				
教科書・参考書	呼吸器外科学 （改訂 4 版、南山堂）				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書の指定する範囲をあらかじめ予習し、講義後は自宅で復習する。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	呼吸器外科関連疾患に関する最新の知識に基づき治療マネージメントを考える過程で Clinical Question, Unmet need を見つけ今後の研究の目的を見つける。				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	呼吸器外科診断学総論
2		2	呼吸器外科疾患診断学各論（1）
3		3	呼吸器外科疾患診断学各論（2）
4		4	呼吸器外科疾患診断学各論（3）
5		5	呼吸器外科疾患診断学各論（4）
6		6	呼吸器外科疾患治療学総論
7		7	呼吸器外科疾患治療学各論（1）
8		8	呼吸器外科疾患治療学各論（2）
9		9	呼吸器外科疾患治療学各論（3）
10		10	呼吸器外科疾患治療学各論（4）
11		11	呼吸器外科疾患治療学各論（5）
12		12	試験、評価
13		13	
14		14	
15		15	

2026 年度講義シラバス（10）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	呼吸器外科手術スキル実習			必修/選択	必修
担当教員	小島 宏司	担当教員連絡先	内線 3336		
単位数	1 単位（3ケ月・1・2・3月）	履修年次	1年・2 年		
テーマと目的	呼吸器外科の専門手術手技を実習する。				
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。				
達成目標	呼吸器外科の基本的手術手技と各疾患の特殊な手術手技の習得。				
教科書・参考書	呼吸器外科学 （改訂 4 版、南山堂）				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書の指定する範囲をあらかじめ予習し、講義後は自宅で復習する。 1時間				
成績評価法	出席と最終実技試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	呼吸器外科領域の基本的手術手技の習得を通じて、新しい術式を考えるきっかけと目を養う。				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	呼吸器外科手術手技実習（1）
2		2	呼吸器外科手術手技実習（2）
3		3	自然気胸手術手技ビデオ研修
4		4	開胸下自然気胸手術手技実習
5		5	胸腔鏡下自然気胸手術手技実習
6		6	肺癌手術手技ビデオ研修
7		7	肺癌手術手技研修（1）
8		8	肺癌手術手技研修（2）
9		9	肺癌手術手技研修（3）
10		10	縦隔腫瘍手術手技研修
11		11	手術手技総括
12		12	試験、評価
13		13	
14		14	
15		15	

2026 年度講義シラバス（11）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	小児外科クリニカルラーニング			必修/選択	必修
担当教員	古田 繁行		担当教員連絡先	3222	
単位数	2 単位 （3ケ月・4、5、6 月）		履修年次	1 年・2 年	
テーマと目的	小児外科疾患に対する症例検討を中心に、画像診断、手術適応、治療方針についてプレゼンテーションできることを目的とする。				
講義計画	実際の臨床例を基に、代表的な小児外科疾患に関して、診察から鑑別疾患を列挙し、診断・治療計画を立て、わかりやすいプレゼンテーションができるようにする。				
達成目標	代表的な小児外科疾患の診察、画像診断、手術適応を含めた治療方針が立てられるようにする。				
教科書・参考書	標準小児外科学（医学書院）				
準備学習(予習・復習・時間)	胎児・小児の成長や発達について学び、新生児・乳幼児・学童の診察ができるよう学習する。 1 時間				
成績評価法	出席と最終試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	発生学を学ぶことで小児外科疾患の治療時期や手術方法が述べられるようにする能力を習得する。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 （出席㊞）	後期(回)	内 容 （出席㊞）
1	胎児診断と発生（1）	1	
2	腎・尿路の発生（1）	2	
3	消化管の発生（1）	3	
4	新生児の消化管奇形基本手術（1）	4	
5	新生児の消化管奇形基本手術（2）	5	
6	小児癌の外科手術手技（1）	6	
7	小児癌の外科手術手技（2）	7	
8	小児腹痛疾患の診断（1）	8	
9	小児腹痛疾患の診断（2）	9	
10	胎児外科手術の基本（1）	10	
11	胎児外科手術の基本（2）	11	
12	胎児外科手術の基本（3）	12	
13		13	
14		14	
15		15	

2026 年度講義シラバス（12）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	小児外科手術スキル実習			必修/選択	必修
担当教員	古田 繁行	担当教員連絡先	3222		
単位数	1 単位（3ケ月・4・5・6 月）	履修年次	1 年・2年		
テーマと目的	小児特有の手術のビデオ研修				
講義計画	1. ビデオライブラリーから借用した小児外科疾患の手術ビデオ供覧 2. 小児腹腔鏡手術手技の基礎				
達成目標	小児外科特有の疾患の手術方法の理解				
教科書・参考書	スタンダード小児外科手術（メディカルビュー社） スタンダード小児内視鏡外科手術（メディカルビュー社）				
準備学習(予習・復習・時間)	ドライラボにて内視鏡で縫合ができるようにする。 1 時間				
成績評価法	出席と最終試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	手術ビデオから、手術部位の局所解剖の知識を習得し、わかりやすい手術記録を残す能力を習得する。				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	頭頸部疾患の手術（1）	1	
2	頭頸部疾患の手術（2）	2	
3	新生児手術の基本（1）	3	
4	新生児手術の基本（2）	4	
5	肝胆道の手術（1）	5	
6	肝胆道の手術（2）	6	
7	直腸。肛門疾患（1）	7	
8	直腸。肛門疾患（2）	8	
9	小児鏡視下手術の基本（1）	9	
10	小児鏡視下手術の基本（2）	10	
11	小児鏡視下手術の応用（1）	11	
12	小児鏡視下手術の応用（2）	12	
13		13	
14		14	
15		15	

2026 年度講義シラバス（13）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	乳腺内分泌外科クリニカルラーニング			必修/選択	必修
担当教員	津川 浩一郎	担当教員連絡先	内線 3223		
単位数	2単位（3ケ月・7・8・9 月）	履修年次	1 年・2 年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患の診療を理解する				
講義計画	種々の基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺症例を通して診断学を理解し、管理方法を検討する。				
達成目標	1. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺の診断について、論理的に説明できる 2. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺の診断に基づいた治療計画を策定できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	Up To Date（学内からオンライにて検索可能）を参照 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	乳腺内分泌外科領域の臨床における最新情報を理解し、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	乳腺・甲状腺の解剖	1	
2	ホルモンと乳腺の関連	2	
3	乳癌の疫学	3	
4	乳腺・甲状腺疾患の視触診	4	
5	乳腺疾患の画像診断	5	
6	甲状腺・副甲状腺疾患の画像診断	6	
7	転移性乳癌の画像診断	7	
8	乳腺疾患の組織診断	8	
9	甲状腺・副甲状腺疾患の組織診断	9	
10	良性乳腺疾患の外科治療	10	
11	乳癌の外科治療	11	
12	甲状腺・副甲状腺疾患の外科治療	12	
13		13	
14		14	

15		15	

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	乳腺内分泌外科手術スキル実習			必修/選択	必修
担当教員	津川 浩一郎	担当教員連絡先	内線 3223		
単位数	1単位（3ケ月・7・8・9 月）	履修年次	1年・2 年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患の外科療法を理解する				
講義計画	種々の基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺症例を通して外科療法を理解し、管理方法を検討する。				
達成目標	1. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患について、外科療法を論理的に説明できる 2. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患の組織診断と外科手技を行うことができる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	Up To Date（学内からオンライにて検索可能）を参照 1時間				
成績評価法	出席と実習内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	乳腺内分泌外科領域の標準的な診断手技および手術について実践する能力を習得する。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 （出席㊞）	後期(回)	内 容 （出席㊞）
1	乳腺疾患の穿刺細胞診	1	
2	乳腺疾患の針生検	2	
3	乳腺疾患のマンモトーム生検	3	
4	乳腺疾患の外科生検	4	
5	良性乳腺疾患の手術（1）	5	
6	良性乳腺疾患の手術（2）	6	
7	乳癌の手術―乳房温存術（1）	7	
8	乳癌の手術―乳房温存術（2）	8	
9	乳癌の手術―乳房切除術（1）	9	
10	乳癌の手術―乳房切除術（2）	10	
11	乳癌のリンパ節郭清	11	
12	甲状腺良性腫瘍の手術	12	
13		13	
14		14	
15		15	

2026 年度講義シラバス（15）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	疼痛コントロール			必修/選択	選択
担当教員	内藤　正規	担当教員連絡先	内線 3213		
単位数	1単位（前期1）	履修年次	1年・2 年		
テーマと目的	疼痛緩和ケアの臨床。				
講義計画	疼痛ケアに関する臨床基礎知識の学習と疼痛ケア回診とカンファレンス、そして、学内外講師による講義。				
達成目標	疼痛ケアの EBM を学習し習熟する。				
教科書・参考書	がん疼痛緩和ケア Q&A―効果的な薬物治療・QOL の向上をめざして（じほう出版）				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席、総合討論、発表				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	疼痛ケアに関する基礎知識を学び、臨床の現場で充分に活用できる能力を習得する。				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	がん疼痛緩和ケア概論	1	
2	末期がん医療の実際	2	
3	WHO 方式がん疼痛治療法	3	
4	がん患者の治療に伴う副作用の軽減と症状コントロール	4	
5	疼痛患者の精神的サポート	5	
6	がん告知における医療サポート	6	
7	疼痛緩和と消炎鎮痛剤	7	
8	疼痛緩和におけるオピオイド製剤の役割	8	
9	疼痛緩和におけるオピオイド製剤の適正使用法	9	
10	疼痛緩和における地域医療連携室の役割	10	
11	在宅・緩和病棟の役割とホスピスへのコーディネート	11	
12	疼痛に伴う精神症状の臨床	12	
13	オピオイド製剤の副作用対策	13	
14	がん疼痛緩和ケア総括	14	
15	発表、討論、評価	15	

2026 年度講義シラバス（16）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	Nutrition Support クリニカルラーニング			必修/選択	選択
担当教員	民上 真也		担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1単位（前期1）		履修年次	1年・2 年	
テーマと目的	Nutrition support の最新の EBM の学習。				
講義計画	Nutrition support team の回診と学内外の専門講師による講義。				
達成目標	Nutrition support の最新知見を習熟し、臨床にて実践できることを目標とする。				
教科書・参考書	標準外科学（医学書院）				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席、講義内での発表の評価、試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	NST の活動状況を理解し、臨床応用を習得する。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 （出席㊞）	後期(回)	内 容 （出席㊞）
1	Nutrition support 総論	1	
2	褥瘡治療・予防における NST 活動とその効果	2	
3	周術期管理における NST 活動	3	
4	身体機能回復に対する NST 活動の有用性	4	
5	救急医療と NST	5	
6	Intensive insulin therapy ″IIT″の臨床成績	6	
7	Immunonutrients の作用機序、臨床効果	7	
8	栄養ケアにおけるベッドサイドのモニタリング	8	
9	静脈・経腸栄養法のモニタリングのポイント	9	
10	栄養管理実施加算について	10	
11	絶食患者におけるビタミン非添加末梢静脈栄養時の血中水溶性ビタミン濃度の変化	11	
12	NST のアウトカム評価	12	
13	感染対策としての NST 活動の意義	13	
14	呼吸障害に対する NST 活動とその効果	14	
15	総括、試験	15	

2026 年度講義シラバス（17）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	Infection Control Team Conference			必修/選択	選択
担当教員	榎本 武治	担当教員連絡先	内線 3213		
単位数	1 単位（前期 1）	履修年次	1年・2 年		
テーマと目的	Surgical site infection コントロール全般にわたる最新の EBM の学習。				
講義計画	Surgical site infection コントロールチーム回診カンファレンスと学内外講師による講義。				
達成目標	Surgical site infection コントロール全般の EBM を学習し習熟する。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席、総合討論、発表				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	外科感染症における手術部位感染（SSI）の基本、並びに臨床での実際を理解し、説明できる。				

講 義 内 容

前期（回）	内 容 （出席㊞）	後期（回）	内 容 （出席㊞）
1	SSI 総論	1	
2	耐性菌対策に向けた周術期抗菌薬使用	2	
3	Surgical site infection（SSI）に対する創縁保護用ドレープの有用性	3	
4	『食道癌切除術症例に対する術前 immunonutrition に関する検討	4	
5	術後感染減少を目指した胃癌手術における材料と手技の工夫	5	
6	術後感染対策としての免疫増強栄養法術前投与の重要性	6	
7	大腸癌手術における創縁保護具（wound retractor）の SSI 予防効果	7	
8	下部消化管穿孔術後の重症感染症の検討	8	
9	尾側膵切除術における予防的抗生剤投与に関する検討	9	
10	『胆道再建術後、肝切除術を試行した症例の SSI に関する検討	10	
11	予防的抗菌薬術前術中投与法による胃癌手術の SSI	11	
12	開心術後に生じた縦隔洞炎の治療と起因菌について	12	
13	肺全摘術後膿胸への対処法	13	
14	SSI 総括	14	
15	試験、評価	15	

2026 年度講義シラバス（18）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	人工心肺、補助循環特論			必修/選択	選択
担当教員	島田 勝利		担当教員連絡先	内線 3230	
単位数	2 単位（前期 1・後期 1）		履修年次	1年・2 年	
テーマと目的	開心術の基本補助手段の人工心肺の原理、実践法を習得する。循環の種々の補助手段を理解する。				
講義計画	人工心肺の基礎から説明し、臨床の実際を解説する。補助循環も詳細に説明する。				
達成目標	人工心肺の原理を理解し、実際の臨床での使用法を習得する。人工心肺のトラブル対応法も理解する。種々の循環の補助手段を習得する。				
教科書・参考書	新 心臓血管外科管理ハンドブック 南江堂				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書等を参考に学習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	人工心肺の基礎を理解し、臨床応用法を習得する。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 （出席㊞）	後期(回)	内 容 （出席㊞）
1	人工心肺法総論（1）	1	常温体外循環法各論（1）
2	人工心肺法総論（2）	2	常温体外循環法各論（2）
3	人工心肺法総論（3）	3	常温体外循環法各論（3）
4	人工心肺法総論（4）	4	常温体外循環法各論（4）
5	心筋保護法各論（1）	5	低体温循環停止法各論（1）
6	心筋保護法各論（2）	6	低体温循環停止法各論（2）
7	心筋保護法各論（3）	7	低体温循環停止法各論（3）
8	心筋保護法各論（4）	8	低体温循環停止法各論（4）
9	脳分離体外循環法各論（1）	9	逆行性脳還流法各論（1）
10	脳分離体外循環法各論（2）	10	逆行性脳還流法各論（2）
11	IABP 法各論（1）	11	逆行性脳還流法各論（3）
12	IABP 法各論（2）	12	LVAD 各論（1）
13	PCPS 各論（1）	13	LVAD 各論（2）
14	PCPS 各論（2）	14	人工心臓各論（1）
15	PCPS 各論（3）	15	人工心臓各論（2）

2026 年度講義シラバス（19）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	呼吸器外科　診断実習			必修/選択	選択
担当教員	丸島 秀樹	担当教員連絡先	内線 3336		
単位数	2 単位（前期 1・後期 1）	履修年次	1年・2 年		
テーマと目的	呼吸器疾患診断手技実習として気管支鏡、胸部超音波検査を習得する。				
講義計画	内視鏡専門医による技術指導と実習				
達成目標	内視鏡手技、胸部超音波検査を習得し、呼吸器診断学を学習する。				
教科書・参考書	気管支鏡　第 2 版　日本呼吸器内視鏡学会編（医学書院）				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書の指定する範囲をあらかじめ予習し、講義後は自宅で復習する。　1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	周術期に必要となる気管支鏡、胸部超音波検査方法を理解することにより、医工連携を通じて新しい医療機器の開発へつながる Seeds を見つける。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	呼吸器の解剖	1	院内感染防止
2	呼吸器の生理	2	気管支鏡実習（1）
3	気管支の命名法と肺区域	3	気管支鏡実習（2）
4	気管支壁の構造	4	気管支鏡実習（3）
5	気管支鏡検査の目的	5	気管支鏡実習（4）
6	気道の局所麻酔法	6	気管支鏡実習（5）
7	気管支観察法	7	気管支鏡実習（6）
8	気管支壁病変の生検法	8	気管支鏡実習（7）
9	経気管支肺生検の目的	9	気管支鏡実習（8）
10	経気管支肺生検の方法	10	胸部超音波実習（1）
11	経気管支肺生検の合併症	11	胸部超音波実習（2）
12	超音波気管支鏡の原理	12	胸部超音波実習（3）
13	超音波気管支鏡の方法	13	胸部超音波実習（4）
14	気管支鏡検査と炎症	14	胸部超音波実習（5）
15	気管支鏡検査と腫瘍	15	気管支鏡、超音波実技評価

2026 年度講義シラバス（20）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	乳癌の診断・治療計画			必修/選択	選択
担当教員	津川 浩一郎		担当教員連絡先	内線 3223	
単位数	2単位（前期1、後期1）		履修年次	1 年・2 年	
テーマと目的	乳癌の診断と治療方針の選択・決定までを修得する。				
講義計画	乳癌専門医による講義と実習。診断から治療方針の選択・決定までの流れを実際の症例を通して計画・実行する。				
達成目標	乳癌の診断から標準治療計画の立案。				
教科書・参考書	科学的根拠に基づく乳癌診断ガイドライン 1-5 金原出版				
準備学習(予習・復習・時間)	Up To Date（学内からオンライにて検索可能）を参照 1時間				
成績評価法	出席と発表・討論				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	乳癌診療における標準治療を理解し、実践する能力を習得する。				

講 義 内 容

前期（回）	内 容 （出席㊞）	後期（回）	内 容 （出席㊞）
1	乳癌の画像診断 マンモグラフィ	1	乳癌術式の選択
2	乳癌の画像診断 超音波	2	薬物療法の選択
3	乳癌の画像診断 CT	3	乳癌内分泌療法の選択とレジメン 1
4	乳癌の画像診断 MRI	4	乳癌内分泌療法の選択とレジメン 2
5	乳癌の組織診断 針生検・マンモトーム	5	乳癌化学療法の選択とレジメン 1
6	乳癌の治療計画 1	6	乳癌化学療法の選択とレジメン 2
7	乳癌の治療計画 2	7	乳癌化学療法(分子標的学)の選択とレジメン
8	乳癌の治療計画 3	8	術前化学療法の適応とレジメン
9	乳癌のステージング 1	9	術前内分泌療法の適応とレジメン
10	乳癌のステージング 2	10	術前薬物療法の効果判定 1
11	乳癌のサブタイプ 1	11	術前薬物療法の効果判定 2
12	乳癌のサブタイプ 2	12	術後薬物療法の適応と選択 1
13	乳癌の転移診断 1	13	術後薬物療法の適応と選択 2
14	乳癌の転移診断 2	14	転移乳癌の治療選択 1
15	乳癌の転移診断 3	15	転移乳癌の治療選択 2

2026 年度講義シラバス（21）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	小児がん治療の最前線～キメラ抗原受容体(CAR)-T 細胞療法について～			必修/選択	選択
担当教員	古田 繁行	担当教員連絡先	3222		
単位数	2単位（前期 2）	履修年次	1 年・2年		
テーマと目的	現在おこなわれている CAR-T 細胞治療について学ぶ				
講義計画	CAR-T 細胞治療の歴史と開発への道のりに関して、学外講師による講義をおこなう。				
達成目標	血液腫瘍での有効性から、固形腫瘍への研究接点をみいだす。				
教科書・参考書	別冊医学のあゆみ CAR-T 細胞療法の現在と将来展望（医歯薬出版）				
準備学習(予習・復習・時間)	がん免疫治療の種類を理解する。1 時間				
成績評価法	出席と最終試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	がん治療の現状を理解し、固形腫瘍の特徴に基づいたがん免疫治療の実験を遂行できる能力を習得する。				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 （出席㊞）	後期(回)	内 容 （出席㊞）
1	小児がんの疫学	1	
2	小児血液腫瘍の発生メカニズム 1	2	
3	小児血液腫瘍の発生メカニズム 2	3	
4	小児固形腫瘍の発生メカニズム 1	4	
5	小児固形腫瘍の発生メカニズム 2	5	
6	小児悪性腫瘍の診断 1	6	
7	小児悪性腫瘍の診断 2	7	
8	小児悪性腫瘍の化学療法 1	8	
9	小児悪性腫瘍の化学療法 2	9	
10	小児悪性腫瘍の放射線治療 1	10	
11	小児悪性腫瘍の放射線治療 2	11	
12	小児悪性腫瘍の手術 1	12	
13	小児悪性腫瘍の手術 2	13	
14	がん免疫治療 1	14	
15	がん免疫治療 2	15	

2026 年度講義シラバス（22）

講義コード	※	専攻分野	救急医学		
講義題目	救急・集中治療における生体防御と Critical Care の実際			必修/選択	選択
担当教員	森澤 健一郎	担当教員連絡先	内線 3931		
単位数	2単位（前期1、後期1）	履修年次	1 年・2 年		
テーマと目的	生体侵襲学について学び、その対処法を実践できるようにする。				
講義計画	座学と実習				
達成目標	生体侵襲の基礎を学び、その対処として臨床実践を可能とする。 心肺蘇生法として BLS、ACLS を理解し実践できる。				
教科書・参考書	救急診療指針 へるす出版 集中治療専門医テキスト 日本集中治療医学会				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と討論・討議				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 （出席㊞）	後期(回)	内 容 （出席㊞）
1	侵襲学	1	外傷外科と ACS (acute care surgery) Acute care
2	生体反応(炎症反応)、生体反応のバランスの崩れ	2	Acute care surgery 総論
3	炎症反応の基本的病態, humoral mediator, cytokine	3	ACS : 外傷外科 Trauma surgery
4	心肺蘇生法 BLS, ACLS	4	ACS : 救急外科 Emergency surgery
5	外傷総論	5	ACS : 外科的集中治療 Surgical critical care
6	外傷初期治療, ATLS	6	damage control surgery
7	腹部外傷、胸部外傷、骨盤・四肢外傷、頭部外傷	7	damage control resuscitation
8	重症病態、ショック	8	non – operative management
9	ショック 各論, 治療 血液分布異常性ショック 循環血液量減少性ショック, 心原生ショック	9	ACS における消化管・栄養管理
10	重症病態における各種モニタリング	10	ACS における循環・呼吸管理
11	各種臓器機能補助装置 （PCPS , ECMO , CHDF, IABP など）	11	ACS における内分泌・神経系管理
12	特殊感染症	12	Trauma surgery と General surgery
13	ARDS 管理	13	神経系集中治療
14	遠隔 ICU	14	心臓血管外科的術後管理
15	遠隔救急	15	ドクターカー運用

【 49-3 】2026 年度　大学院シラバス

専攻分野/コース （英文名）	高度臨床医育成コース（総合診療） (Training Course for Physicians with Professional Skills)
研究指導教員	大平 善之 ， 藤谷 茂樹
研究・教育の概略	総合診療は包括性（全人的）、継続性、地域性に特色付けられた医療であるが、それには病歴、身体所見、検査所見の解釈、心理面、社会的背景を的確に捉え、吟味された根拠に基づいた臨床推論を進める能力が必要となる。本コースの目的は臨床研究能力、論文発表能力を兼ね備えた優れた総合診療医としての能力を有し、地域での医療体系、医療保険制度、医療経済学を習得し、地域で活躍できる臨床医を育成することである。本専攻分野の研究は、臨床の場より得られた多くの情報を臨床統計学の手法を用いて解析し、総合診療領域における臨床診断学、治療学、地域医療に役立つ根拠を示し、現場に還元できることをテーマとする。また、臨床研究を始めるにあたっては、医の倫理・生命倫理はもちろん、研究デザイン、医療統計学を学ぶことが必要である。臨床研究としての対象は、総合診療内科が診療に関わる種々の徴候と疾患群であるが、感染症や動脈硬化性疾患など疾患群を横断的に捉えた臨床研究も重要であり意義がある。例えば感染症領域では各種感染症起因菌の疫学調査、迅速診断法、抗菌薬の適正使用、新しい抗菌薬の臨床的評価、院内感染制御について習得し、各研究課題にて臨床より得られたデータの解析を行なう。地域医療学では、保険制度、包括保険制度、クリニカルパス、医療経済、地域完結型医療などについて学び、将来、地域で活躍できる医師、医療機関の開設者、管理者として必要な病院経営学などの事項を身につける。また、選択講義には漢方医療学、高齢者医療学があり、いずれのコースも臨床に即した課題と達成目標が立てられている。
研究項目	1　病歴情報や身体診察の操作特性、診断エラーなど、臨床推論に関する研究 2　患者受療行動、患者意思決定支援に関する研究 3　ポリファーマシー、薬物有害事象、処方最適化などに関する研究 4　地域で捉えた高齢者医療・家庭医療に関する研究 5　プライマリ・ケアの場で必要な迅速診断キットに関する研究 6　卒前・卒後教育に必要なクリニカルスキルに関する研究 7　地域医療連携システム、医療経済、医療政策に関する研究 8　リスクファクターと疾病発症との関連に関する臨床疫学的研究
準備学習(予習・復習)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。

2026 年度講義シラバス（1）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（総合診療）		
講義題目	総合診療症候論　実習 I （プライマリ・ケア症候論 実習 I）			必修/選択	必修
担当教員	大平 善之	担当教員連絡先	内線 3637		
単位数	2 単位（前期 1,後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	総合診療において頻度の高い症候とその捉え方を習得する。				
講義計画	種々の症候について、その出現機序、病態について詳述する。				
達成目標	症候を正しく捉え、病態を考察することができる。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医プライマリ・ケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療　Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、論文を作成して発表する能力				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	発熱 ①	1	体重減少 ①
2	発熱 ②	2	体重減少 ②
3	発熱 ③	3	腰痛 ①
4	発熱 ④	4	腰痛 ②
5	腹痛 ①	5	全身倦怠感 ①
6	腹痛 ②	6	全身倦怠感 ②
7	腹痛 ③	7	食欲不振 ①
8	頭痛 ①	8	食欲不振 ②
9	頭痛 ②	9	呼吸困難 ①
10	頭痛 ③	10	呼吸困難 ②
11	めまい ①	11	呼吸困難 ③
12	めまい ②	12	咳・痰 ①
13	胸痛 ①	13	咳・痰 ②
14	胸痛 ②	14	歩行障害 ①
15	胸痛 ③	15	歩行障害 ②

2026 年度講義シラバス（2）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（総合診療）		
講義題目	総合診療症候論　実習 II （プライマリ・ケア症候論 実習 II）			必修/選択	必修
担当教員	鳥飼 圭人		担当教員連絡先	内線 3640	
単位数	2 単位（前期 1,後期 1）		履修年次	2 年	
テーマと目的	総合診療において頻度の高い症候とその捉え方を習得する。				
講義計画	種々の症候について、その出現機序、病態について詳述する。				
達成目標	症候を正しく捉え、病態を考察することができる。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医プライマリ・ケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療　Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、論文を作成して発表する能力				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	便通異常 ①	1	急性腹症 ①
2	便通異常 ②	2	急性腹症 ②
3	四肢のしびれ ①	3	意識障害 ①
4	四肢のしびれ ②	4	意識障害 ②
5	不眠 ①	5	歩行障害 ①
6	不眠 ②	6	歩行障害 ②
7	関節痛 ①	7	不定愁訴 ①
8	関節痛 ②	8	不定愁訴 ②
9	動悸 ①	9	体重増加 ①
10	動悸 ②	10	不明熱 ①
11	排尿障害 ①	11	不明熱 ②
12	排尿障害 ②	12	不明熱 ③
13	リンパ節腫脹 ①	13	口内炎・舌炎
14	リンパ節腫脹 ②	14	皮疹 ①
15	リンパ節腫脹 ③	15	皮疹 ②

2026 年度講義シラバス（3）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（総合診療）		
講義題目	総合診療病態論 I （プライマリ・ケア病態論 I）			必修/選択	必修
担当教員	大平 善之	担当教員連絡先	内線 3637		
単位数	2 単位（前期 1,後期 1）	履修年次	1年		
テーマと目的	プライマリ・ケアに必要な病態診断学を学ぶ				
講義計画	プライマリ・ケアに必要な種々の症候や検査結果の意義を理解し、病態診断に至る過程について詳述する。				
達成目標	臨床統計学も含め鑑別診断を行ないながら病態診断を行うことができる。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医プライマリ・ケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、論文を作成して発表する能力				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	意識障害 ①	1	ショック ③
2	意識障害 ②	2	電解質異常 ①
3	意識障害 ③	3	電解質異常 ②
4	不整脈 ①	4	電解質異常 ③
5	不整脈 ②	5	胸痛 ①
6	心不全 ①	6	胸痛 ②
7	心不全 ②	7	胸痛 ③
8	不明熱 ①	8	腹痛 ①
9	不明熱 ②	9	腹痛 ②
10	不明熱 ③	10	腹痛 ③
11	頭痛 ①	11	動脈硬化 ①
12	頭痛 ②	12	動脈硬化 ②
13	頭痛 ③	13	動脈硬化 ③
14	ショック ①	14	四肢のしびれ ①
15	ショック ②	15	四肢のしびれ ②

2026 年度講義シラバス（4）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（総合診療）		
講義題目	総合診療病態論 II （プライマリ・ケア病態論 II）			必修/選択	必修
担当教員	鳥飼 圭人	担当教員連絡先	内線 3640		
単位数	2 単位（前期 1,後期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	総合診療に必要な病態診断学を学ぶ				
講義計画	総合診療に必要な種々の症候や検査結果の意義を理解し、病態診断に至る過程について詳述する。				
達成目標	臨床統計学も含め鑑別診断を行ないながら病態診断を行うことができる。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医プライマリ・ケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療　Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、論文を作成して発表する能力				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	関節痛 ①	1	四肢のしびれ ①
2	関節痛 ②	2	四肢のしびれ ②
3	皮疹 ①	3	排尿障害 ①
4	皮疹 ②	4	排尿障害 ②
5	間歇性跛行 ①	5	間歇性跛行 ①
6	間歇性跛行 ②	6	間歇性跛行 ②
7	めまい ①	7	血尿 ①
8	めまい ②	8	血尿 ②
9	めまい ③	9	肥満 ①
10	咳 ①	10	肥満 ②
11	咳 ②	11	肝障害 ①
12	呼吸困難 ①	12	肝障害 ②
13	呼吸困難 ②	13	腎機能障害 ①
14	動悸	14	腎機能障害 ②
15	体重減少	15	電解質異常

2026 年度講義シラバス（5）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（総合診療）		
講義題目	総合診療診断学 Ⅰ（基礎編） （プライマリ・ケア診断学 Ⅰ（基礎編））			必修/選択	必修
担当教員	大平 善之		担当教員連絡先	内線 3637	
単位数	2 単位（前期 1,後期 1）		履修年次	1 年	
テーマと目的	総合診療に必要な医療面接、身体所見、一般検査の意義を習得する。				
講義計画	医療面接、基本的な身体所見、一般検査について詳述する。				
達成目標	医療面接で得られた情報に加え、正確な身体所見がとれ、必要な一般検査を選択し、その検査結果を正しく評価することができる。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医プライマリ・ケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、論文を作成して発表する能力				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	医療面接 ①	1	身体所見 ②
2	医療面接 ②	2	身体所見 ③
3	医療面接 ③	3	身体所見 ④
4	病歴のとりかた ①	4	身体所見 ⑤
5	病歴のとりかた ②	5	一般検査 ①
6	病歴のとりかた ③	6	一般検査 ②
7	バイタルサイン ①	7	一般検査 ③
8	バイタルサイン ②	8	一般検査 ④
9	バイタルサイン ③	9	一般検査 ⑤
10	全身状態 ①	10	心電図 ①
11	全身状態 ②	11	心電図 ②
12	全身状態 ③	12	症候よりみた鑑別診断 ①
13	精神状態 ①	13	症候よりみた鑑別診断 ②
14	精神状態 ②	14	症候よりみた鑑別診断 ③
15	身体所見 ①	15	症候よりみた鑑別診断 ④

2026 年度講義シラバス（6）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（総合診療）		
講義題目	総合診療診断学 II（応用編） （プライマリ・ケア診断学 II（応用編））			必修/選択	必修
担当教員	中川 禎介		担当教員連絡先	内線 3637	
単位数	2 単位（前期 1,後期 1）		履修年次	2 年	
テーマと目的	総合診療に必要な医療面接、身体所見、一般検査の意義を習得する。				
講義計画	医療面接、基本的な身体所見、一般検査について詳述する。				
達成目標	医療面接で得られた情報に加え、正確な身体所見がとれ、必要な一般検査を選択し、その検査結果を正しく評価することができる。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医プライマリ・ケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、論文を作成して発表する能力				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	検査情報の有用性	1	診断のガイドライン 肺結核 ②
2	感度と特異度 ①	2	診断のガイドライン 喘息 ①
3	感度と特異度 ②	3	診断のガイドライン 喘息 ②
4	診断の根拠 ①	4	診断のガイドライン COPD ①
5	診断の根拠 ②	5	診断のガイドライン 虚血性心筋症
6	Med Line	6	診断のガイドライン ①、②
7	臨床視診 ①	7	診断のガイドライン 高血圧
8	臨床視診 ②	8	診断のガイドライン 胃潰瘍
9	臨床視診 ③	9	診断のガイドライン 慢性腸炎
10	臨床疫学 ①	10	診断のガイドライン 糖尿病 ①
11	臨床疫学 ②	11	診断のガイドライン 糖尿病 ②
12	臨床疫学 ③	12	診断のガイドライン 動脈硬化
13	診断のガイドライン 肺炎 ①	13	診断のガイドライン 甲状腺疾患
14	診断のガイドライン 肺炎 ②	14	診断のガイドライン 膠原病
15	診断のガイドライン 肺結核 ①	15	診断のガイドライン 泌尿器系疾患

2026 年度講義シラバス（7）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（総合診療）	
講義題目	総合診療画像診断学・基礎編 （ プライマリ・ケア画像診断学・基礎編 ）		必修/選択	必修
担当教員	大平 善之	担当教員連絡先	内線 3637	
単位数	2 単位（前期 1,後期 1）	履修年次	1 年	
テーマと目的	画像の成り立ちや人体発生・生理を理解することで、画像の理解度を深める。			
講義計画	1 回1時間で、一つのテーマを理解し、出席者全員で実際の症例を検討する。			
達成目標	各々の分野の画像を一通り理解し、画像判断を行うことができる。			
教科書・参考書	毎回プリントを配布する。			
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間			
成績評価法	実際の読影の際に各個人の理解度を評価する。			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、論文を作成して発表する能力			

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	空気と軟部組織と石灰化と金属	1	肺間質性病変の見え方 1
2	胸部単純でのものの厚さと見え方	2	肺間質性病変の見え方 2
3	縦隔の構造と見え方	3	肺間質性病変の見え方 3
4	散乱線とものの見え方	4	肺間質性病変の見え方 4
5	胸部単純と散乱線効果	5	縦隔病変の見え方 1
6	横隔膜の構造と見え方	6	縦隔病変の見え方 2
7	吸気の程度と tenting(下肺間膜)	7	縦隔病変の見え方 3
8	年齢と吸気の程度と横隔膜の形	8	心大血管病変の見え方 1
9	シルエットサインと病変部位	9	心大血管病変の見え方 1
10	無気肺とその見え方	10	吸気の程度と心陰影の見え方
11	無気肺とその見え方	11	体位による心陰影・縦隔影の変化
12	肺実質病変の見え方 1	12	胸水の見え方
13	肺実質病変の見え方 2	13	胸水の量と見え方
14	肺実質病変の見え方 3	14	気胸の見え方
15	肺実質病変の見え方 4	15	仰臥位と立位の違い

2026 年度講義シラバス（8）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（総合診療）		
講義題目	総合診療画像診断学・応用編 （プライマリ・ケア画像診断学・応用編）			必修/選択	必修
担当教員	大平 善之	担当教員連絡先	内線 3637		
単位数	2 単位（前期 1,後期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	胸部単純および CT 画像の実例を通して理解度を深める。(応用編)				
講義計画	1 回1時間で、一つのテーマを理解し、出席者全員で実際の症例を検討する。				
達成目標	各々の分野の画像を一通り理解し、画像判断を行うことができる。				
教科書・参考書	毎回プリントを配布する。				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	実際の読影の際に各個人の理解度を評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、論文を作成して発表する能力				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	胸部単純と CT の違い 1	1	スリガラス影の分布とその意義
2	胸部単純と CT の違い 2	2	浸潤影と気管支壁肥厚
3	胸部単純と CT の違い 3	3	Acinar shadow と結核
4	胸部単純と CT の違い 4	4	娘気管支とマイコプラズマ肺炎
5	小葉構造と CT 画像 1	5	Kerley lines と癌性リンパ管症
6	小葉構造と CT 画像 2	6	石灰化を伴った肺腫瘤
7	経気道性病変の CT 1	7	気腫性変化と蜂巣肺
8	経気道性病変の CT 2	8	空洞病変とその特徴
9	経気道性病変の CT 3	9	胸部単純と心臓の拍動
10	間質病変と CT 画像・その1	10	吸気の程度と心陰影の見え方
11	間質病変と CT 画像・その2	11	体位による心陰影・縦隔影の変化
12	肺の構造と機能	12	Vascular pedicle とその意義
13	気管気管支病変	13	肺血管の正常像
14	肺動脈疾患	14	肺うっ血と胸部単純所見・その1
15	大動脈疾患	15	肺うっ血と胸部単純所見・その2

2026 年度講義シラバス（9）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（総合診療）		
講義題目	総合診療臨床推論学 （プライマリ・ケア臨床推論学）			必修/選択	必修
担当教員	大平 善之	担当教員連絡先	内線 3637		
単位数	2 単位（前期 1,後期 1）	履修年次	1年		
テーマと目的	総合診療に必要な臨床推論と EBM				
講義計画	臨床推論の概要、臨床疫学について学習し、後期では、実際の症例を呈示しながら解説を行う。				
達成目標	臨床の場より得られる情報に基づき、臨床疫学、医学文献を駆使し、EBM を実践することができる。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医プライマリ・ケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、論文を作成して発表する能力				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	臨床推論学総論 ①	1	危険因子 ①
2	臨床推論学総論 ②	2	危険因子 ②
3	臨床推論学総論 ③	3	危険因子 ③
4	EBM ①	4	発生率と有病率
5	EBM ②	5	臨床推論の実際 ①
6	臨床疫学 ①	6	臨床推論の実際 ②
7	臨床疫学 ②	7	臨床推論の実際 ③
8	検査の精度 ①	8	臨床推論の実際 ④
9	検査の精度 ②	9	臨床推論の実際 ⑤
10	検査の精度 ③	10	臨床推論の実際 ⑥
11	検査の精度 ④	11	臨床推論の実際 ⑦
12	マスクリーニング	12	臨床推論の実際 ⑧
13	医学文献の吟味と利用 ①	13	臨床推論の実際 ⑨
14	医学文献の吟味と利用 ②	14	臨床推論の実際 ⑩
15	医学文献の吟味と利用 ③	15	臨床推論の実際 ⑪

2026 年度講義シラバス（10）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（総合診療）		
講義題目	総合診療治療学 （プライマリ・ケア治療学）			必修/選択	必修
担当教員	大平 善之		担当教員連絡先	内線 3637	
単位数	1単位（前期,後期）（第2, 4 週）		履修年次	1 年	
テーマと目的	日常診療で遭遇する頻度の多い症候と病態の理解で深める				
講義計画	総合診療医にとって重要で、頻度の多い症候と病態について詳述する。				
達成目標	日常診療において頻度の多い症候・病態を理解し、適切な診断・治療方針の立案、実践を行うことができる。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医プライマリ・ケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義時の質疑応答、受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、論文を作成して発表する能力				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	適切な抗生剤使用	1	尿路結石
2	肺炎	2	心不全
3	肺結核	3	ウィルス性疾患
4	電解質異常	4	脳血管障害
5	大腸憩室炎	5	ショック
6	腎盂腎炎	6	低酸素血症
7	高血圧	7	アルコール性肝障害
8	不整脈	8	血球減少症
9	高血糖、低血糖	9	DIC
10	貧血	10	感染性心内膜炎
11	深部静脈血栓症	11	急性副腎不全
12	肺梗塞	12	甲状腺疾患
13	心虚血性疾患	13	髄膜炎
14	副鼻腔炎	14	オンコロジカル・エマージェンシー
15	けいれん発作	15	プライマリ・ケアに必要な外科学

2026 年度講義シラバス（11）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（総合診療）	
講義題目	総合診療感染症学 実習 （プライマリ・ケア感染症学 実習）		必修/選択	必修
担当教員	大平 善之	担当教員連絡先	内線 3637	
単位数	2 単位（前期 1・後期 1）	履修年次	1 年	
テーマと目的	プライマリ・ケアに必要な感染症学の基礎を修得する。			
講義計画	原因微生物を想定し、抗菌薬の選択ができるよう感染症の体系を詳述する。			
達成目標	感染症学の基礎を理解し、適正な抗菌薬治療を行うことができる。			
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医プライマリ・ケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)			
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間			
成績評価法	出席と講義時の質疑応答、受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	プライマリ・ケアの知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	原因微生物の想定	1	肺膿瘍 膿胸
2	グラム染色による原因微生物想定	2	尿路感染症
3	抗菌薬の選択	3	泌尿器関連感染症
4	抗菌薬の投与量・投与経路	4	感染性心内膜炎
5	PK/PD パラメーターについて	5	カテーテル関連感染症
6	効果判定に用いるべきパラメーターについて	6	急性下痢症
7	抗菌薬について	7	腹腔内感染症
8	抗真菌薬について	8	皮膚・軟部組織感染症 ①
9	抗ウィルス薬について	9	皮膚・軟部組織感染症 ②
10	抗寄生虫薬について	10	髄膜炎 化膿性関節炎
11	髄膜炎	11	耳・副鼻腔感染症
12	脳膿瘍	12	性感染症
13	脳炎	13	黄色ブドウ球菌感染症
14	上気道感染症	14	連鎖球菌感染症
15	下気道感染症	15	抗酸菌感染症

2026 年度講義シラバス（12）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（総合診療）
講義題目	漢方医療学	必修/選択	選択
担当教員	松田 隆秀	担当教員連絡先	内線 3639
単位数	2単位（前期 1・後期 1）	履修年次	2年
テーマと目的	近年西洋医学との融合を念頭においた全人的視野で捉えた治療方針で選択できる能力を養う。		
講義計画	現代医療で使用される生薬・漢方薬について理解するために、漢方医学の考え方、基礎、理論及び診療法について基本的知識と技能を習得する。		
達成目標	西洋医学との融合を念頭においた全人的視野で捉えた治療の選択肢のひとつとして、漢方医療を選択できる能力を養う。		
教科書・参考書	学生のための漢方医学テキスト(南江堂)、入門漢方医学(南江堂) 絵でみる和漢診療学(医学書院)、漢方医学 大塚敬節著(創元社)		
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間		
成績評価法	出席状況、試験によって評価		
卒業認定・学位授与の方針との関連性	プライマリ・ケアの知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する		

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	漢方医学概論−西洋医学と東洋医学	1	漢方治療学概論
2	漢方医学の歴史−日本漢方と中医学	2	主な方剤群【1】① 桂枝湯類
3	漢方医学の基本的構造、方剤の性格	3	② 柴胡剤と瀉心湯類
4	証とは何か	4	③ 麻黄剤
5	基礎理論−八網の概念	5	④ 附子剤
6	基礎理論−六病位の概念	6	⑤ 地黄剤
7	基礎理論−六病位の診断と記録	7	⑥ 人参湯類と参耆剤
8	気血水の概念	8	⑦ 石膏剤
9	気の異常	9	主な方剤群【2】① 気剤
10	血の異常、水の異常	10	主な方剤群【2】② 駆瘀血剤
11	五臓の概念と異常	11	主な方剤群【2】③ 利水剤
12	漢方の診療法−四診とは	12	漢方薬の副作用
13	漢方の診療法−望診、聞診、問診	13	服薬指導
14	漢方の診療法−切診	14	生薬概論 薬剤作用
15	漢方の診療法−切診	15	漢方薬の剤形

2026 年度講義シラバス（13）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（総合診療）		
講義題目	プライマリ・ケア高齢者医療学			必修/選択	選択
担当教員	鳥飼 圭人	担当教員連絡先	内線 3640		
単位数	2単位（前期 1・後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	プライマリ・ケアに必要な高齢者医学、老年学を学ぶ(総論)				
講義計画	高齢者のプライマリ・ケアに必要な老年学および高齢者の医学に必要な基礎的知識を講義する。				
達成目標	高齢者に対して、より適切な全人的医療を実践することができる。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリ・ケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	プライマリ・ケアの知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	老年学と老年医学 ①	1	高齢者薬物療法 ②
2	老年学と老年医学 ②	2	予防医学 ①
3	老化の機序 ①	3	予防医学 ②
4	老化の機序 ②	4	高齢者の生活機能障害の評価 ①
5	老年病の臨床 ①	5	高齢者の生活機能障害の評価 ②
6	老年病の臨床 ②	6	高齢者介護と医療 ①
7	高齢者に特有な症候 ①	7	高齢者介護と医療 ②
8	高齢者に特有な症候 ②	8	高齢者介護とリハビリテーション ①
9	高齢者の救急疾患と対策 ①	9	高齢者介護とリハビリテーション ②
10	高齢者の救急疾患と対策 ②	10	高齢者の終末期医療と医療倫理 ①
11	高齢者の検査値の変化と意義 ①	11	高齢者の終末期医療と医療倫理 ②
12	高齢者の検査値の変化と意義 ②	12	高齢者と精神医療 ①
13	高齢者の栄養 ①	13	高齢者と精神医療 ②
14	高齢者の栄養 ②	14	医療経済 EBM ①
15	高齢者薬物療法 ①	15	医療経済 EBM ②

2026 年度講義シラバス（14）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（総合診療）		
講義題目	プライマリ・ケア地域医療学			必修/選択	選択
担当教員	大平 善之	担当教員連絡先	内線 3637		
単位数	2単位（前期 1・後期 1）	履修年次	2年		
テーマと目的	地域医療の実際				
講義計画	地域医療に必用な基礎的事項と実践について詳述する。				
達成目標	地域の医療機関、施設等を含めた多職種連携・協働による地域で生活する人々に対するアプローチを理解し、将来の地域包括ケアシステムのあり方について考えることができる。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医プライマリ・ケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	プライマリ・ケアの知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	地域医療学とは ①	1	地域の医療機関 ①
2	地域医療学とは ②	2	地域の医療機関 ②
3	地域医療学とは ③	3	地域の医療機関 ③
4	地域で捉えた予防医学 ①	4	在宅医療 ①
5	地域で捉えた予防医学 ②	5	在宅医療 ②
6	健康福祉局の役割 ①	6	在宅医療 ③
7	健康福祉局の役割 ②	7	在宅医療 ④
8	健康福祉局の役割 ③	8	在宅ターミナルケア ①
9	地域クリニカルパス ①	9	在宅ターミナルケア ②
10	地域クリニカルパス ②	10	在宅ターミナルケア ③
11	種々の職業との連携 ①	11	僻地医療 ①
12	種々の職業との連携 ②	12	僻地医療 ②
13	病診連携 ①	13	地域医療における医療制度 ①
14	病診連携 ②	14	地域医療における医療制度 ②
15	病診連携 ③	15	地域医療における医療制度 ③